

実録！ 文系卒・社会人からの

医学部学士編入 成功の記録

加治屋 広太

もくじ

第1章 はじめに

本書について 14

- 執筆の動機…………… 14
- 幅広く医学部に関心のある方へ…………… 16
- 私の略歴…………… 18

第2章 医学部学士編入学試験の概要と私の受験戦略

医学部学士編入学試験について 20

- 試験の概要…………… 20
- 各大学の個性を把握することが重要…………… 21
- 編入試験のスケジュール…………… 22

私の受験戦略 24

- 国立大学か私立大学かの選択…………… 24
- 受験戦略の検討…………… 26
 - 一般試験と編入試験の必要科目の整理
 - 対策すべき科目数の違い
 - 受験開始当初立てた戦略

編入試験に主軸を置いた理由
併願戦略から編入の専願へ

第3章 受験計画とその進行

受験計画について 34

- 受験期限の設定…………… 34
 - 2年間という受験期間の設定
 - 編入試験の筆記試験科目についての考察
 - 編入試験の面接試験についての考察
- 必要な科目の整理…………… 36
- 1年目の受験大学の選択…………… 37
 - 試験科目を元に受験校の選択
 - 早い時期から本番の試験を経験することを重視
 - 大学ごとに選抜方法に特色がある
- 各科目の勉強の方針…………… 40
 - 英語・生物・数学・物理・化学
- 編入試験の生物対策について…………… 44
 - 高校生物の延長
 - 医学部生になって振り返る編入試験の出題範囲

受験勉強の具体的な進行 47

- 全体を振り返って…………… 47
 - 生物に特化できる期間は意外と短い
 - 受験戦績
- 受験生活序盤について…………… 48
 - 生物の知識の詰め込み
 - 過去問を解くことで勉強の進捗を確認
 - 生物以外の科目について
 - 自分で1日の時間割をつくること
 - 勉強の工夫
- 初めての受験とそこから得たこと…………… 51
 - 初めての受験
 - 自分に足りないことに気づくことができた
 - 記述練習の重要性
 - 受験生の大半が解ける問題を確実に解くこと
- 受験生活中盤について…………… 54
 - 生物と英語に自信を持ちだす
 - 志望動機書の推敲で勉強のペースが乱れる
 - 再度勉強のペースを立て直す
 - 筆記試験に手応えを感じだす

どんな状況でも地道に勉強を継続すること

筆記試験に合格したときの心理

二次試験前後の過ごし方

●受験生活終盤について…………… 61

1年目の受験校も残すところ2校

1年目の受験終盤の心境

自分の勉強方針の正しさを感じる

面接試験は自然体が一番

合格発表

役に立った教科書について 66

●生物…………… 66

●英語…………… 69

●化学…………… 70

●物理…………… 71

●医療知識…………… 72

第4章 受験大学の情報

鹿児島大学 74

●基本情報…………… 74

●受験を通じて得た印象…………… 75

●筆記試験について…………… 76

長崎大学 78

●基本情報…………… 78

●受験を通じて得た印象…………… 79

●筆記試験について…………… 80

●小論文試験について…………… 82

●面接試験について…………… 83

鳥取大学 85

●基本情報…………… 85

●受験を通じて得た印象…………… 86

●筆記試験について…………… 87

秋田大学 89

●基本情報…………… 89

●書類選考について…………… 90

山口大学 91

●基本情報…………… 91

●受験を通じて得た印象…………… 92

●筆記試験について…………… 93

- 採点の特殊性
- 学科試験の特殊性
- 学科試験合格の目安について
- 小論文試験について

- 個人面接試験について…………… 96
- 集団面接試験について…………… 99

大分大学 101

- 基本情報…………… 101
- 受験を通じて得た印象…………… 102
- 書類選考について…………… 102
- 筆記試験について…………… 103
- 個人面接試験について…………… 105
- 集団面接試験について…………… 107

受験で意識していたこと 109

- 生物の記述問題について…………… 109
- 面接試験について…………… 110
 - 緊張することは仕方がない
 - 気持ちの入った自然な回答を心掛けること

第5章 志望動機の整理

前提として考えておくべきこと 114

- 受験準備の中で志望動機の整理は最重要事項…………… 114
- 過去の経歴から将来の展望までの一貫性…………… 114
- 答えの出ない作業には割り切りも重要…………… 115

志望動機の整理の仕方について 117

- 誰が選考するのかという視点…………… 117
- 志望動機書の作成と面接試験の想定問答…………… 120
- 面接試験で大学が知りたいこと…………… 121

医学部への強い志望動機 123

- 志望動機とは…………… 123
- 医師になろうと考えた具体的経験…………… 124
- 医師になって成し遂げたいこと…………… 125
 - 医師という職業の公益性
 - 専門領域が細分化されていること
 - 希望診療科を絞るということ
- 将来像を具体化することについて…………… 128
 - マッチング制度の結果から大学の現況を調べる

- やりたいことを前職ではできなかった理由……………130
- やりたいことはなぜ医師ならばできるのか……………131
- やりたいことを主導的立場で行えると考える理由……………132
 - 医師になる上での強みとは
 - 医療分野で生きる強みを考えるために
 - 問題に対して何が必要かという視点
 - 多くの人は自分の強みに気づいていないだけ

医師としての適性があること 136

- 最低限必要な資質……………136
 - 高貴な倫理観をもっていること
 - 学習意欲と学習能力があること
 - ストレス耐性

医療分野への問題意識 139

一般入学生に良い影響を与えられること 140

面接官と一緒に仕事をしたいと思える人材かどうか 142

出願に関わる細かい事項 143

- スケジュール管理……………143
 - 試験日程について
 - 学部時代の成績証明書と卒業証明書について

推薦書について

- その他……………145

履歴書の記載方法について

受験料の振込について

第6章 受験を終えて

会社を辞めての受験について 148

- 仕事と勉強の両立を選ばなかった理由……………148
- 勉強計画が狂っても修正する余裕があった……………148
- 短期間で合格できなかった場合への不安……………149

山口大学に入学して 151

- 入学してからの授業について……………151
- 医学部の勉強についていけるか……………153
- 奨学金について……………154

日本学生支援機構

樫の芽会

岩國育英財団

- あとがき……………158

第 1 章

はじめに

本書について

● 執筆の動機

本書を手にとっていただき、ありがとうございます。

私は現在、山口大学医学部に在籍し、医師を志して勉学に励んでおります。医学部に入学したときの年齢は28歳で、一般入学試験で入学してきた学生とは、年齢が10歳近く離れています。

私は数年間の社会人経験の中で、身近な人を思いやる気持ちをそのまま仕事にできるような職業に従事したいと考えようになりました。そのような中で社会人が医学部に入学することが珍しくないことを知り、2016年春に医学部受験を決意しました。受験を決意するまでは、自分が数年後に医学部に入学して再び大学に通うことになろうとはつゆにも思いませんでした。

私は学士編入学試験という選抜方法で医学部に入学しました。この試験には2つの特徴があります。

1つは試験問題や模範解答等の情報を公開している大学

が少なく、限られた情報をもとに受験戦略を立てざるを得ないことです。

もう1つは、理系学部出身者だけでなく、文系学部出身者にも受験資格を与えている大学が多いことです。実際に文系学部卒業者や、医療と無関係の分野にいた人々が合格しているケースは少なくないようです。

大学はこの編入試験で、今後の医療分野を主導できる人材を、多様な専門領域から受け入れようとしています。しかしながら、筆記試験では難解な生物学の問題が出題され、面接試験では医師を相手に堂々とした応対をしなければならなかったため、医療と無関係の分野にいた方にとっては、受験を決意することが難しいのではないかと思います。

一方で、今後の医療の将来を担う人材は、研究や臨床を担うという視点に加えて、社会が抱えている医療問題にも関心を持ち、医療業界の変革を現場から主導できるような人材であるべきだと感じております。このような人材を輩出するためには、大学の教育機能も重要ですが、入学者選抜の段階で、強い社会貢献意欲を持った人物を採用することこそ大事なのではないかと思います。

本書では、私が受験を通じて得たことを、できるだけ具

体的にお伝えするようにしております。医療と無関係の分野にいた私が、医学部に合格するまでの過程をお伝えすることで、医学部学士編入学試験について少しでも知っていただけるのではないかと考えました。これらの情報が、これから医学部受験を志す方の後押しとなり、また医学部受験とは縁遠いと考えている方にとって、医師となり社会貢献していく道を知るきっかけとなれば幸いです。

注) 本書で編入試験といった場合、医学部学士編入学試験を指します。

注) 一般試験といった場合、一般入学試験を指します。

● 幅広く医学部に関心のある方へ

私は2016年1月に医学部受験を決意し、勤めていた企業の退職手続きを進め、2016年3月から受験勉強を開始しました。

勉強すべき内容が多く、なかなか知識が定着せずに不安な気持ちになることもあり、決して順風満帆な受験生活ではありませんでした。不安な気持ちをかき消すために、できるだけ早く医学部に入学するためには、どんな準備をし

ていくべきか、ということを常々考えていました。結果的に受験にかけた期間は9ヵ月で、2つの大学から最終合格をいただくことができました。編入試験の受験者の中では比較的短い準備期間での合格だったと思います。

私が合格することができたのは、試験問題や面接官との相性に恵まれたことが大きかったと思います。絶対に合格できるという学力や面接対策ができていたとは思いませんが、試験情報が少ない中で、諦めずに少しでも合格可能性が高まるように準備を進めました。

本書では、私の勉強の進行、受験した大学の試験情報、志望動機の整理方法等を具体的にまとめてあります。これから編入試験の受験を検討されている方がスケジュールを立てていく際の1つの参考にしていただければと思います。

また、中には一般試験で医学部を受験する方が志望動機を整理する際に、参考にしていただける情報もあると思います。

本書が幅広い方に手に取ってもらえて、1人でも多くの方の考えを深めるきっかけとなりましたら幸いです。

● 私の略歴

私は地元の県立高校で文系課程を履修し、大学は法学部に進学しました。学部在籍中は部活動に取り組んでいたことから、勉強よりも部活動を優先する生活を送っていました。

勉強面では企業活動に関心を持っていましたので、学部3年時から会社法の少人数演習授業に参加しました。

在学中は民間企業への就職活動も経験しました。様々な企業の面接試験を通じて、自分の志望を整理して相手に伝えることの難しさを体験しました。この経験は医学部の面接で自らの志望動機を伝えていく際にも大変役立ったと思っています。

第2章

医学部学士編入学試験
の概要と
私の受験戦略

医学部学士編入学試験について

● 試験の概要

医学部学士編入学試験は、他学部において学士号を取得した学生が医学部医学科の2年次または3年次に編入する機会を与える試験です。近年は、群馬大学や大分大学等のように、他学部課程を2年間修了していれば学士を保有していない段階でも受験資格を与える、とする大学も出てきています。

2016年時点では編入試験は全国約30校の国立大学と数校の私立大学において実施されています。募集人員は大学によって異なります。5名あるいは10名としている大学が多いですが、中には滋賀医科大学、群馬大学、弘前大学のように15名～20名を募集している大学もあります。大学ごとに独自の選考方法がとられていますが、受験の流れは基本的に、

- ①出願書類の提出
- ②筆記試験の受験
- ③面接試験の受験

の3つの過程に分解できます。大学によっては、出願書類の1つとして1,000字から2,000字程度の課題小論文の作成を求めているところもあります。出願時に慌てなくてもよいように、過年度の試験情報を確認し、余裕をもって準備を進めていくべきです。

● 各大学の個性を把握することが重要

編入試験で求められる人材は大学によって異なります。出願要件に、理数系科目についての一定数の単位を要求している大学もあります。大阪大学、名古屋大学、千葉大学、新潟大学等がそうであり、このような大学では、学部卒業後に研究の道に進むことが推奨されている場合が多いようです。出願前には募集要項に記載されている求める人物像を確認し、自分の志望と合う大学を選ぶことが重要です。

募集要項の記載を確認するのと並行して、その大学に求められている機能を考えることも重要です。例えば私は、東京、大阪、名古屋等の都市部の大学とそうでない大学とで、大学の担う機能に違いがあり、それに伴い募集する人員も異なるのではないかと考えました。前者ではより研究志向が強く優れた学問的背景を持つ学生が、後者では地方

の臨床現場で活躍しようという熱意の強い学生が、求められているように思いました。私のような理科系の学問背景が乏しい者が合格を目指すならば後者の大学だと考えました。特定の大学に対する拘りは持っておりませんでしたので、地方国立大学の中から、できるだけ合格可能性の高そうな大学を選んでいきました。

● 編入試験のスケジュール

医学部学士編入学試験は各大学が個別に設定した日程で行われます(表①)。6月頃～10月頃に試験が集中し受験シーズンのピークとなりますが、早い大学では4月頃から募集要項が出始めます。秋にかけて多くの大学で選考が終了し、12月になるとほぼすべての大学で翌年4月に入学する合格者が確定していることとなります。大学個別の日程で行われるため、複数校の試験日程が重なる場合があります。また、平日に試験がある場合もありますので、募集要項が公表された段階で余裕を持ってスケジュールを立てることが重要です。

近年2年次後期編入から2年次前期編入へと入学の時期を早める大学が多くなっています。この変更に伴って、試

験日が変動する大学もありますが、6月～10月に試験が集中する傾向は今後もかわらないと思われます。

【表① 2016年度編入試験スケジュール(国立大学)】

	5月以前	6月	7月	8月	9月	10月	11月以後
1次選抜	琉球	香川	大阪	鳥根	旭川医科	山口	弘前
	福井・後期	東京医歯	筑波	名古屋	鳥取	大分・前期	
	富山	滋賀医科	高知	千葉	群馬		
	大分・後期	鹿児島	愛媛	新潟	福井・前期		
	岡山		神戸	長崎	浜松医科		
				北海道	秋田		
				金沢			
2次選抜		大分・後期	岡山	神戸	千葉	旭川医科	大分・前期
		琉球	香川	高知	名古屋	北海道	秋田
		福井・後期	滋賀医科	愛媛	鳥根	群馬	浜松医科
			富山		長崎	鳥取	山口
			東京医歯		新潟	福井・前期	弘前
			鹿児島		金沢		
			大阪				
3次選抜			大分・後期			金沢	大分・前期

※大分、岡山、金沢、秋田の1次選考は、出願書類に基づく書類選考。

※福井と大分は入学が2年後期から2年前期へ変更されたことに伴い、2016年は2回試験が行われた。

あ と が き

これから医学部学士編入学試験の受験を検討している方にとって有益な情報を提供したいという思いから、本書を執筆しました。特に私と同じように、医学と無関係の分野から医師を志す方の背中を押すような本にしたいという気持ちのもと、私が受験生活から得た情報をできるだけ具体的に伝えるように心がけました。

医学と無関係の分野と申しあげましたが、実はすべての分野が医学分野につながり得るものだと思っています。そして個人的には、一見して医学領域と関係のないような背景を持つ方の発想や行動が、将来の医学・医療をより良い方向に導いていくのではないかと考えております。今後も医学部学士編入学試験に多様な人材が集まることを陰ながら願っております。

最後になりましたが、本書の執筆動機に賛同して下さったエール出版社の御担当者様、草稿の段階でご意見くださった皆様に厚く御礼申し上げます。

■著者プロフィール■

加治屋広太 (かじや こうた)

1989年生まれ、福岡県出身。一橋大学法学部卒業後、4年間の総合商社での勤務を経て、医学部受験を志す。2017年現在、山口大学医学部に在籍中。

実録！ 文系卒・社会人からの 医学部学士編入 成功の記録

2017年10月5日 初版第1刷発行

著者 加治屋 広太
編集人 清水 智 則 発行所 エール出版社
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2-12 信愛ビル 4 F
e-mail : info@yell-books.com

電話 03(3291)0306 FAX 03(3291)0310

*定価はカバーに表示してあります。

乱丁本・落丁本はおとりかえいたします。

© 禁無断転載

ISBN978-4-7539-3405-8